論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者 氏　　名	たむら　よしこ 田村　美子
論文題目	重症心身障害児の母親のレジリエンスの影響要因 Factors that influence resilience of mothers who raise children with severe physical and mental disabilities
論文審査担当者名	主　　査　　船津　守久　印 審査委員　　片上　宗二　印 審査委員　　池田　智子　印 審査委員　　田中　丈夫　印

本研究では重症心身障害児を養育する母親のレジリエンスに及ぼす影響要因を明らかにすることを目的とした．そして，母親がレジリエンスを獲得するプロセスの肯定的な側面を明らかにすることにより，重症心身障害児とその母親を社会全体で支えていくための具体的支援の示唆を得ることを目的に研究に取り組んだ．本博士論文は全 7 章から構成されている。

第１章では，重症心身障害児のレジリエンスに関する文献検討を行った．重症心身障害児，超重症児の現在の背景や障害児の支援についての現状を提示した．本研究の研究デザイン，研究目的，研究方法について解説をした．

第２章では、日本国内における母親のレジリエンスの研究の文献研究をおこなった。母親は、障害をもった子どもに対する育児に対して負担や不安を感じていた。また、育児で子どもに親としての役割が果たせていると実感することがレジリエンスに影響していた。人生の経験が育児に影響することが考えられる。子どもの障害を受け止め、母親がどう乗り越えていくか、レジリエンスが影響しており、母親の抱える不安やストレスの対処方法や困難を乗り越えていくためのサポートの重要性を示唆した。

第３章では、超重症児を在宅で養育する母親のインタビューからテキストマイニングを用い共起ネットワークによる分析を行った。その結果、[生まれ育っている存在を知らせる]、[活動的なバクバクの会]、[未熟児で遅い発達]、[臓器移植の両方の立場がわかる]、[理解されない意思表現]、[毎日お風呂に入るのは当たり前]、[生活を考えてほしい]、[病気とともに生活]、[外に出て広がる世界]、[週１回しか行けない保育所]、[出先がない療育施設]、[厳しい行政の壁]の 12 の概念を生成した。

第４章では、超重症児を養育する母親の出産から現在に至るまでの子育てのプロセスを複線径路・等至性モデルにより可視化した。超重症児の母親は、子どもの [障害を受け入れる]、人工呼吸器を装着により[わが子が選んだ生きる道]を信じていた。[社会から埋もれた子どもの存在]から、母親は[子どもと共に世界を広げる]活動をしていた。役所や周囲の人から[理解されない子どもの意思]や[行政の壁]を経験していた。母親は困難

を乗り越え[自分自身の将来を再考]し、目標に向っていくプロセスを明らかにした。

第５章では、超重症児の母親が困難を乗り越える未来志向に変化するプロセスを３段階のモデルに示した。母親は、わが子の障害に[押しつぶれそうな子育て]からさまざま困難と葛藤しながら [立ちはだかる社会の壁]を実感し、子どもと母親が[社会に埋もれた存在]のネガティブ志向から、わが子の生命力と共に[わが子と共に生きる道を進む]そして日々の[わが子の成長を実感]し、周囲からのサポートを得ながら、[わが子とともに世界を広げる] 未来志向に変化していた。わが子が選んだ生きる道を一緒に進む原動力がネガティブな思考から肯定的思考に変化し、レジリエンスに影響していることを明らかにした。

第６章では、重症心身障害の母親のレジリエンスの影響要因を４つの質問紙を使用し調査した。Wagnall and Young （1993）の Resilience Scale の邦訳版（薄井 2008）、ソーシャルサポート（吉田、2004）、障害児の母親のストレス QRS 日本語版、（稲波・小椋・西、1980）、障害児の親の肯定的・否定的変化（Perceived Positive Change : PPC）を使用した。母親のストレスの軽減は、子どもの要因（r=0.87），夫の要因（r=0.82）との強い相関がみられた．夫から実質的サポートが母親のストレスを軽減することが示唆された．重症心身障害児の母親のレジリエンスと障害児の親の肯定的変化（PPC）に相関（r=0.46）がみられた。子どもの成長を通して、障害のある子どもの母親としての自信を少しずつ獲得し，母親としての否定的な感情から肯定的な感情に徐々に変化していき、レジリエンスを獲得していったことを示唆した。

第７章では、本研究で得た結果および今後の課題について総合的に考察した．重症心身障害児の母親は，母親のサポートを求める「求援力」が必要であることを示した。

本研究の意義と今後の課題について議論した。重症心身障害児の母親のレジリエンスを高めるための支援について提案を行なっている。

本論文は、以下の点で評価できる。

本研究では重症心身障害児を養育する母親のレジリエンスに及ぼす影響要因を、混合研究法を用いて調査し、レジリエンスの影響要因を肯定的な側面と獲得的な要因を明らかにしたことである。重症心身障害児の母親がレジリエンスを獲得するプロセスの否定的な側面から肯定的な側面へのプロセスを明らかにしている。そして、レジリエンスを獲得するプロセスを、可視化したことである。

重症心身障害児の母親が、レジリエンスを獲得していく要因として、受動的な支援のみでなく、自らがサポートを求め受け入れる能動的な力「求援力」の関係を示したことである。

重症心身障害児の養育の困難さ、育児不安や育児負担の困難を乗り越えレジリエンスを獲得するプロセスは、同じように子育てをしている母親の生きる力になる。母親と重症心身障害児のおかれている状況を知り、理解を深めることができ、支援の提案を行っていることである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を授与される十分な資格があると認められる。

2019 年　2 月　7 日